

平成30年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	世界に開かれた信濃大町のおもてなし事業 ～ガイドプラットフォーム構築とインバウンド観光に向けた着地情報の充実～
事業主体 (連絡先)	大町市観光協会 大町市大町 3200
事業区分	⑥ 産業振興、雇用拡大に関する事業 ア 特色ある観光地づくり
事業タイプ	ソフト
総事業費	3,224,113 円 (うち支援金: 2,575,000 円)

事業内容

- 1) ガイドのプラットフォーム構築とガイド養成
 - ①連携の観光団体との意見交換会の実施
 - ②おすすめのモデルコースの整備・紹介
 - ③ガイド研修
- 2) インバウンド観光にむけた着地情報の充実
 - ①お食事処、お土産、宿泊のウェブサイト多言語化
 - ②歴史・文化紹介
 1. 歴史文化紹介の「信濃大町歴史探訪」リーフレット 英語版発行 (A5 版、フルカラー 24 ページ、10,000 部)
 2. 仁科文化を紹介するリーフレット (A3 版三つ折り、フルカラー、10,000 部)
 3. 神社仏閣 英語版の説明ツール作成 仁科神明宮、若一王子神社、霊松寺



【ガイド研修】

【目標・ねらい】

2020年までの3年間で次の目的で事業を展開。
 (1) 個別に活動している観光団体と連携し、ガイドのプラットフォームを作り、大町の魅力を伝えるガイドを養成する。
 (2) インバウンド観光に向けた着地情報の充実を図る。

事業効果

- (1) 研修会を通じて、参加者同士の顔が見える環境ができ、ガイド研修のアンケートからも前向きな意見が出ていた。ガイドの機能・情報・人材の共有(=プラットフォーム構築)が前進した。
 - ・研修会6回・養成ガイド11人(3回以上研修に参加した人) 参加者延べ64名+スタッフ・協会役員13名計77名
 - ・ガイドマニュアル4コース
 - ・モデルコース9本を当市観光協会HP「信濃大町なび」に掲載できたことにより、閲覧されていることがわかり、効果がでている。※新規ページ モデルコースのPVが上がった。(2017年0 2018年6620PV)
 - (2) ①HPで発信する着地情報4言語(英語・繁体語・簡体語・韓国語)
 - ②-1 歴史文化紹介「信濃大町歴史探訪」リーフレット 英語版 10,000部
 - ②-2 仁科文化を紹介するリーフレット 10,000部
 - ②-3 現地に置く英語版説明ツール3種
- インバウンド観光や仁科の里 信濃大町の基礎を築いた仁科氏のリーフレット等のツールにより着地情報が充実した。
- ※当市観光協会HP「信濃大町なび」のサイト解析(2019年3月6日)結果 日本人と外国人の閲覧者推移 セッション数 外国人閲覧者 2015年 19512 2018年 36230 2015年VS2018年 86%増加

※自己評価【A】

【理由】研修4回の予定が6回実施
 ガイドの機能・情報・人材の共有(=プラットフォーム構築)が前進したことは、大きい価値があると考えます。
 またインバウンド観光に向けて必要な着地情報が充実した。

今後の取り組み

2019年度は信州花フェスタの開催年であり、国宝仁科神明宮で20年に1度の式年遷宮が行われる。こうした大きなイベントを活用しながら、次の目的に向かって事業を推進していきたい。

(1) ガイドの機能・情報・人材の共有(=プラットフォーム構築)により、協会への情報集中と、実際のガイド事業のすみ分けを図り、大町の魅力を伝えるガイドを養成する。

①ガイドの得意分野やレベルに応じたガイド認定の仕組みをつくる。

②学習 → 認定・登録 → 実践の流れを構築するため、平成30年度に研究開発をしたモデルコースやガイドマニュアルを活用した実践の場をつくる。

③新規ガイドの募集と育成に努め、学び合いの場を継続する。

(2) インバウンド観光に向けた着地情報の充実を図る。

④動画による魅力発信